

短期大学部/各学科の教育目標とカリキュラムの特色

短期大学部の教育理念

短期大学部は、人としての可能性を追求し、充実した人生を歩むことができる女性の育成を目指して、次の教育理念を掲げます。

① 社会人として自立した女性を育成する

社会人として「自立」し、より豊かで健全な暮らしと社会の実現に貢献できる女性の育成を目指します。

② 智慧と学芸を身に付けた女性を育成する

社会人として自立するための、基本的な「智慧と学芸」を身に付けた女性の育成を目指します。

③ 「いのち」を慈しむ心を持った女性を育成する

すべての「いのち」を等しく慈しむ心を持った女性の育成を目指します。

ライフデザイン学科（短期大学部）

1 アドミッションポリシー

- ① 相手の立場に立って考え、人を大切にすることができる人
- ② 現代社会の諸問題に対して、幅広い関心を持ち、自ら考え、学ぶ意欲のある人
- ③ 短大生活の中で、自らの将来の目標を決めて、その目標に向かって勉強したい人
- ④ 専門知識や技能を有したプロフェッショナルを目指す人
- ⑤ 社会人として必要な幅広い能力を身につけ、豊かな生き方を目指す人

2 ディプロマポリシー

- ① カリキュラムの多面的な履修を通して、豊かな人間形成をおこない、幅広く深い現代的教養を身につける
- ② 体系的な学習を通して、現代の多様な課題を見つけ、問題を解決する判断力を身につける
- ③ 自らの人生の目標に向かって努力し、実践できる人材となる
- ④ 社会の変化に対応して、生涯を通して自らを高めることができる
- ⑤ 自らの立場を相対化し、広い視野から他者と協働できる
- ⑥ 学んだことや考察した結果を適切な手段によつて的確に表現することができる

3 カリキュラムの特色

① 入り口から出口まで一貫して「未来へつながる実践的な学習」を重視したプログラム

自らの将来をデザインするための核となるのが、必修科目の「ライフデザイン総論Ⅰ・Ⅱ」と「ライフデザイン特論Ⅰ・Ⅱ」です。1年次前期の導入教育プログラムである「ライフデザイン総論Ⅰ」、1年次後期の「ライフデザイン総論Ⅱ」では、各分野のエキスパートの体験談の聴講、人生や社会のさまざまなテーマについてのディスカッションなどを通し、各自将来像を模索します。合わせて自分の立てた将来目標に基づきライフデザイン・プロフェッショナル（就職力）と呼ばれる7分野から各自が必要な科目を選択し、各自のユニークな履修計画を立てます。2年次の「ライフデザイン特論Ⅰ・Ⅱ」では、ゼミ形式で社会に出る心構えを学びます。

② 双方向型・体験型授業によるコミュニケーションを重視したプログラム

講義科目においても双方向性を重視するのはもちろんですが、特に演習・実習科目では、適切な

媒体のデザインを通じた、コミュニケーションの一環としての自己の表現という観点を重視しています。これらの科目には、明示的にコミュニケーションを目的とする「プレゼンテーション演習Ⅰ・Ⅱ」や、デジタル媒体を利用した「インターネット演習Ⅰ・Ⅱ」のみならず、「リビングデザイン演習」、「ファッションクリエイティブ実習」なども含まれます。これらの双方向型・体験型授業を通して、豊かなコミュニケーション能力の獲得を目指します。

③ 科学的に課題設定・課題解決できる生活者の育成を重視したプログラム

身近な環境を科学的に考える態度を養うには、多様な分野における課題設定の仕方や課題解決の方法を学習することが重要です。本学科では、ライフデザイン・スタンダード（社会人力）として「女性の生き方」、「心の世界」、「グローバル」や「情報」などを必修科目または選択必修科目として用意しており、これらは生活という総合分野を分析する切り口を表しています。これらを履修することにより、総合的な課題設定・課題解決法を学習することができます。

こども保育学科（短期大学部）

1 アドミッションポリシー

- ① 相手の立場に立って考え、人を大切にすることのできる人
- ② 自らのよさや可能性を信じ、伸ばす努力をする人
- ③ 保育に必要な技術・知識を、積極的に習得しようとする人
- ④ 幅広い領域について興味・関心を持ち、学ぼうとする人

2 ディプロマポリシー

- ① 保育者として必要な専門知識・技能の習得に努める
- ② 幅広い教養を身につける
- ③ 保育の対象となる人の状態、家族、地域の人々の状況などを正しく判断し、その都度適切な援助行動や支援を行なうことができる
- ④ 保育者としての資質向上へ意欲を持ち、保育ニーズの変化に対応できる
- ⑤ 利用者に対してだけでなく、地域の子育て支援者としての責任を持った行動を取ることができる
- ⑥ チームワークを大切にし、周囲と良好なコミュニケーションをとることができる

3 カリキュラムの特色

① 理論と実践の構造化

各科目間の系統性と広がり留意した科目の学期配当を行っています。1年次前期を「保育に関する基礎知識や方法を学ぶ時期」、1年次後期を「基礎理論を土台として、実践に踏み出す時期」、2年次前期を「実践を通して学ぶ時期」、2年次後期を「理論と実践の統合を目指す時期」と位置づけ、それぞれの時期の教育目標を達成するための科目を配当しています。

② 本学独自科目の設定

本学科の音楽教育と美術教育については、資格や免許のために必修とされている法定基準科目数を超え、本学独自科目も設定しています。また、全人教育を目指し、「幅広い知識の習得を目指す科目」も、多数（基礎演習、家政学演習Ⅰ、国語教育入門、邦楽、保育と園芸、いのちを考える、京

都の文化と芸術、その他)設定しています。

③ 着眼点の開発と、観察力の育成

光華幼稚園、つわぶき園との連携によって、こどもの姿を身近に観ることができます。たとえば、1年次後期に担当されている「保育実践演習」(本学独自科目)では、実際の保育現場でこどもを観察し記録する機会を多く設けています。学生たちは、その体験の積み重ねにより、こどもを深く理解していく力を身につけていきます。